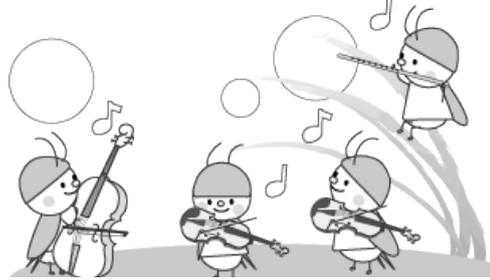


秋のお彼岸



8月後半は、雨が降ったり止んだり
梅雨のようなお天気が続く、田畑の状態が
心配されます。大智寺でも突風により
参道の杉が見事に倒れ、文字通り
満身創痍で秋を迎えています。

最近日ごとに涼しさが増し、
萩の葉に朝露がこぼれるのを見ると、
今年の夏も無事終わったことを実感します。
皆様、いかがお過ごしでしょうか。



今月は23日の秋分の日を中心に前後3日間、
計7日間 秋のお彼岸を迎えます。

お彼岸は仏教徒にとって、日常生活の中で自発的に行う修行期間です。
この7日間自分なりに修行に取り組んだ上で、お墓参りをし、
修行によって積まれた徳をもってご先祖様に回し向けご供養とします。



さて、仏教徒には「持戒（じがい）」といって
守らなければならない戒め（いましめ）があります。

人間社会にはルールや規則がありますが、
それらが社会全体のために作られたものであるのに対し
この「持戒」というものは
「仏心に目覚める」という目的のため、
仏教徒自身が自発的に心に持っている戒めです。

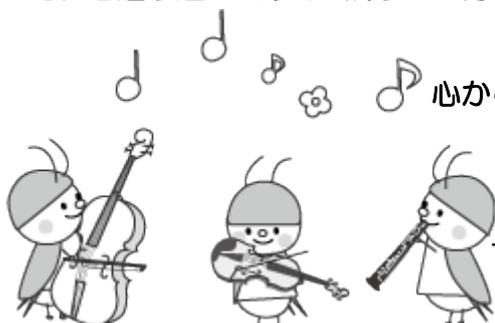
その中のひとつ「不殺生戒（ふせっしょうかい）」
についてご紹介しましょう。

「生きものを殺さない戒め」と書きますが、
私たちは生きものの命を頂いて生きています。
それはお釈迦様の時代から変わりません。
お米の命、野菜の命、豚や鳥の命、牛や魚の命、
植物も動物も命の尊さに違いはありません。

この「不殺生戒」の大切なところは、
「みだりに」「むやみに」生きものの命を奪わないことです。
自分の命も他の命も等しく尊いものであると自覚し、
その上で日々過ごしているか、内省することです。

昔から「腹八分目」といいますが、
それを通り越して今は「残りの二分はデザートで」とか・・・

毎日の食事を前に、
心から「いただきます」「ごちそうさま」と声に出し、
必要以上にむさぼらない、それだけでも
「生かしていただいている」という心を持って
毎日行うことができれば、
十分お彼岸の修行になるのではないのでしょうか。



大智寺だより

平成26年長月
Vol.55

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1
電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

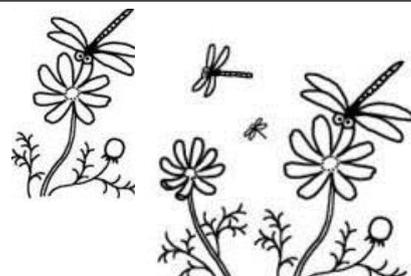
<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去のすべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

8月号発行部数
300部

ご愛読
ありがとうございます

大智寺第18世 古範和尚様
27回忌法要



本堂の歴代和尚様の位牌堂におひげをたっぷり生やした和尚様のお写真があります。きっと中高年以上の方々、古範和尚様の元気な頃のお姿を覚えていらっしゃると思います。



若い頃から苦勞され、晩年は視覚障害を負いつつお寺をお守りくださいました。寡黙ではありましたが、柔和で静かな雰囲気和尚様でした。

この冬、27回忌を迎えます。便宜を図り来月の開山忌(10月30日)に併修させていただく予定です。皆様の無事、お寺の無事を和尚様にお伝えできればと思います。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc
わからないこと 質問帳 ⑤



「法要の時の塔婆(とうば)って、何？」

年忌法要を行われる際、お寺からご家族へ塔婆をお渡しします。

塔婆の表には、お経の一部(たとえば「大円鏡智」「平等性智」「妙観察智」など)と、当日法要なされた故人のご戒名が書かれています。

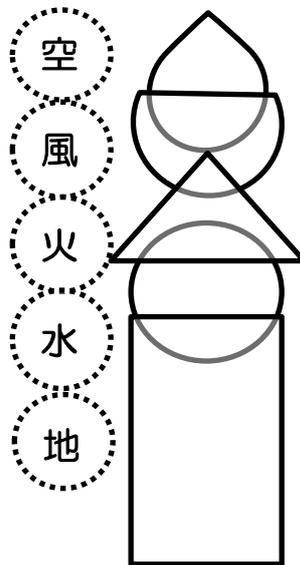
もう少し塔婆をじっくり見てみると、塔婆の上の方になにやら切れ目があることに気がきます。この切れ目は、単なる装飾ではありません。

今でこそ塔婆というと、木地のものを指しますが、「塔婆」とはもともとお釈迦様のお墓を指しており、古代インドでは「ストゥーパ」と言いました。「ストゥーパ」と何度も繰り返し声に出すと、「卒塔婆(そとば)」という音に近いのがわかります。

それがインドから中国へ、そして日本へと伝わり、時の大名貴族や有力者、大富豪たちは、五重塔、三重塔、多宝塔を建てて塔婆としました。また、五重塔や三重塔は建てられずとも土地の地主や権力者は、墓地に五輪塔を建てて塔婆としました。

お経文の中に

「一たび卒塔婆を見奉れば、永く三悪道を離る」とあるように、昔から塔婆を建てることは亡き人のため 多大な功德があるとされました。



《 五輪塔の図 》

《 塔婆を分解した図 》

しかし、一般庶民はそんな塔など建てられません。でも亡き人のため何とかしたい。

そのため誰にでも手軽に建てられる塔婆として、木地の塔婆ができたのです。

塔婆の切れ目を分解すると、「宝珠」「半円」「三角」「円」「長方形」が重なっています。

それぞれ宇宙を構成している「空」「風」「火」「水」「地」を表しており、

この成り立ちは、五重塔や五輪塔と同じです。

つまり、一般庶民でも木地塔婆を建てれば、五重塔や五輪塔を建てるのと同じ功德が受けられる。そんな人々のせめてもの気持ちが、木地の塔婆には込められていたのです。

法要の後に塔婆をお墓へたてる時には、建立の意味を込めて「建てる」の漢字を使います。今は塔婆の切れ目や「建てる」という字にわずかに名残が見える、塔婆の由来のお話でした。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31 ページより

⑤

「男女上下の隔（へだ）てなく そのまま即ち（すなわち）仏なり」

少しずつ区切ってお話を進めているので、この部分の前に
「一念不生（一つの雑念も生まれてこない状態）に至る時」と付け足すとわかりやすいと思います。
「一念不生」については、先月「坐禅の数息観」を例にお話しましたが、
「主婦の私はなかなか坐禅する時間もない」「齢をとって膝が痛いから坐禅なんてできない」など、
老若男女、なかなか坐禅を通して「一念不生」に至ることは難しいものです。

けれど、坐禅にこだわることはありません。
よく日常を振り返ってみると、「一念不生」つまり「一つの雑念も生まれてこない」
そんな時、ありませんか？



草刈り機を慎重に動かしている時、真剣においしい卵焼きを作っている時、
ワイシャツをきれいにアイロンがけしている時、畑に野菜の苗を植えている時、
「あ、今なんにも考えてなかった」と思うその瞬間は
男だとか女だとか、若いか年寄りか、上も下もなく、誰にでも訪れます。
悲しいかな、その瞬間は長続きしませんが、確かにその瞬間誰もが仏心を体験しているのです。

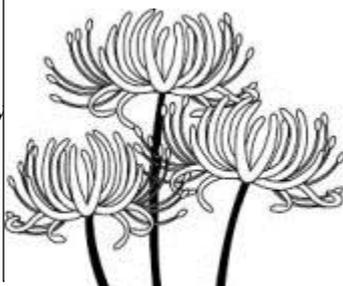
今月のひまわり

さわやかな風が吹き、時々空いっぱいウロコ雲
が広がります。長良川沿いにはブドウの出店も並
び、秋の味覚に舌鼓打つ頃となりました。曇り日
が続きますが、そろそろきれいなお月様も拝める
のではと心待ちにしております。夏の疲れが出や
すい時期、皆様お変わりありませんか？

お寺では、お施餓鬼の翌々日辺りから瓦屋さん
が本堂屋根の修理をしてくださっています。冬に
雪が積もり、本堂の大屋根から一気に落ちるのが
危ないため、ところどころに雪止めの瓦を入れて
いただいています。この8月下旬の天候不順の中、
職人さん一人で黙々と仕事して下さっています。

「転ばぬ先の杖」という言葉がありますが、結局
転んでみないとわからないことも多々あります。
先日は大玄閣の床下に白アリが入り、和尚二人で
対処に追われ、しばらくしたら突風で参道の杉が
真ん中でバッサリと倒れ、そうこうしているうち
に、池の土手はイノシシにひっくり返され見るも
無残なありさまに。「イノシシが嫌い」なはずの
彼岸花も派手に掘り起こされてしまいました。

転ばぬようにと日々思い
つつも、なかなか杖は見つ
かりません。でも、黙々と
今できることをやる瓦職人
さんの姿に励まされ、この
満身創痍を乗り越えていけ
ればと思います。



～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

超簡単 洗って蒸して食べる ねっとりおいしいきぬかつぎ

- ① 小さくて粒ぞろいのサトイモを、皮をむかないように そっと洗う。
- ② サトイモの頭の部分を少し切る。
- ③ 蒸し器にサトイモを入れて、じっくり火が通るまで蒸す。
- ④ サトイモを一つつまんで、ツルンと皮がむけたら生姜醤油につけて食べる。

あーんまり簡単すぎるのは、あかんかね？でもあつつあつの皮付サトイモを
ふーふー言いながらチュッと吸って食べるのが一番やと私なんか思うけどねえ
生姜はちゃんとおろしておいて、お醤油つけてね。
煮物はお醤油も砂糖もたくさん使うけど、これやとちょっとやよ（笑）





～ うちの宗教って、どんなんやっけ? ～

第二十回：檀家（だんか）

大智寺の宗門を、やさしく簡単におわかりいただければ嬉しい、そんなお話



この「うちの宗教って、どんなんやっけ?」シリーズも20回目を迎えました。なんとなく臨済宗とはどんなものか、ほんやりとイメージしていただけたでしょうか。

さて、今回はお寺の「檀家」についてです。

このあたりでは「檀家」と言いますが、「檀徒」と同じ意味です。

大本山妙心寺では「妙心寺派宗綱」の第六章に「檀徒」について以下規定されています。
(檀徒)

第28条 本派の檀徒とは左記の事項を具備するものをいう。

- 一、本派の教義を信奉し、花園会員であるもの
- 二、本派の寺院または教会に所属して、祖先の仏事法要を依頼するもの
- 三、本派、大本山、寺院または教会の維持修造のため、その経費を負担助弁するもの

毎年お寺に「花園会費」を納めてくださっている方が、ここで言う「花園会員」となります。

この大智寺を、西暦1500年より今まで守り続けてくださったのはそれぞれの時代に生きてこられた檀家の皆様です。

檀家の皆様のおかげで、境内から建物、瓦一枚一枚が維持され、お亡くなりになられた方のご供養が途切れることなく続き、お寺は「祈りの場」としての役目を果たすことができるのです。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

9月28日(日) 一回500円
(朝8時～9時) (内300円は義援金)
要申込

8月写経会 備忘録

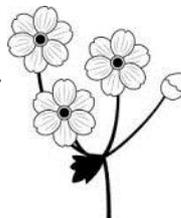
暦の上では秋を迎え、蝉が最後の力をふりしぼる蒸し暑い8月の写経会。前回に引き続き「波羅蜜」の中の「持戒」についてお話しさせて頂きました。最愛の子を亡くしたキサゴータミーさんと お釈迦様との対話は、有名なお話です。今も昔も、家族を亡くした悲しみは変わりません。お釈迦様はそんな悲しみの心に、そっと手を差し伸べてくださいます。

永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代に亘り、他の方のお骨と混じらないことから、「完全個別永代供養墓」といいます。

ご希望の方は、いつでもご相談ください。



完全個別永代供養墓
1区画：38万円～
(墓石代金含む)

ご家庭のご事情により、また、その方のご希望により費用は変わります。

詳しくは、ご見学を含めてご説明いたしますので、ご予約の上、ご来山ください。